

第5回 総合計画策定委員会 作業部会(第6作業部会) 議事要旨

■日 時：令和5年（2023年）5月12日（金）9：59～11：54

■場 所：本庁中層棟4階 第4委員会室

■出席者：教育未来創生室長、まなびの支援課長、学校管理課長、学校教育部次長（学校教育室長兼務）、教育センター長、中央図書館長、青少年室長、地域教育部次長（放課後子ども育成室長兼務）
<事務局> 行政経営部企画財政室 参事、主幹

■資料

- ・資料1-1 吹田市まち・ひと・しごと創生推進委員会設置要領
- ・資料1-1 吹田市まち・ひと・しごと創生推進委員会作業部会設置基準
- ・資料1-3 第4次総合計画見直し・第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定体制等（R5.4 一部追加）
- ・資料2 第4次総合計画見直し・第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略策定スケジュール・本日の到達点
- ・資料3 第4次総合計画中間見直しの考え方（再整理）
- ・資料4 第4次総合計画基本計画改訂版素案（第5回作業部会時点）
- ・資料5 第4次総合計画基本計画改訂版素案 新旧対照表（第4回作業部会・第5回作業部会時点）
- ・資料6 第4次総合計画基本計画改訂版 見直し箇所一覧
- ・資料7 第4次総合計画基本計画改訂版 見直し箇所一覧（策定後の主な動向別）
- ・資料8 市民参画 主な意見
- ・資料9 SDGs バックキャスティング
- ・資料10 第4次総合計画基本計画改訂版 見直しポイント別施策指標一覧
- ・資料11 第4次総合計画基本計画改訂版 指標設定理由・根拠及び見直し理由一覧
- ・資料12 まち・ひと・しごと創生総合戦略 進捗状況報告（R3まで）
- ・資料13 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子案
- ・手持ち参考資料1 デジタル田園都市国家構想（内閣府・令和4年（2022年）12月策定）
- ・手持ち参考資料2 地域創生 SDGs ローカル指標リスト
- ・手持ち参考資料3 SDGs スタディパネル

1. 開会

2. 案件

【報告】(1)～(2) (資料1、資料2)

【議題】(1) ア 中間見直しの考え方（再整理）(資料3)

【議題】(1) イ 検討 (資料4、資料5)

ア) 中間見直し基本方針「策定後の主な動向」を踏まえた見直し（資料6、7）

主な意見

○中核市移行

- ・教員不足の問題や教員の働き方改革推進などの国の動きもある中、教職員人事権については過渡期であり、現段階で総合計画に書き込んでいくのは難しいかと思う。

○新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響

- ・GIGAスクール構想を前倒して実施したことによる影響は大きかったと認識している。

イ) 市民参画で得られた市民意見の素案への反映（資料8）

- ※各作業部会における指摘を受け、資料を差替え。ホームページ公開分の資料8については、差替え後の資料。

（意見なし）

ウ) SDGs バックキャストによる SDGs 推進のための施策の充実（資料9）

主な意見

○ゴールと政策の対応

- ・生涯学習と図書館は、広い分野を扱っているため、特筆して対応させるべきゴールがない。また、公民館というハードに対する期待なのか、学習というソフトに対する期待なのか入り乱れているため、整理が必要である。例えば子供の貧困について、公民館というハードを活かした取組にも着手しようとしている。

○資料上の言葉の使い方

- ・文言を整理する必要がある。学校教育部では、「性教育」や「校内暴力」という言葉は使わない。また、「自殺」という言葉が書かれているが、この言葉が適切なのか。誤解を生じないように、言葉の使い方に注意してもらいたい。

エ) 施策指標の見直し（資料10、11）

（意見なし）

【議題】(2) 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略素案

ア まち・ひと・しごと創生総合戦略 第1期まとめ(資料12)

イ 検討(資料13)

主な意見

○第2期総合戦略の基本目標

- ・基本目標1の「子供まんなか」という表現にやや違和感がある。
- ・基本目標2の「笑涯輝き」という言葉から考えると、生涯学習もここに関連する政策ではないか。

○人口ビジョン・人口推計

- ・転入超過が増えているとあるが、これまでの開発による転入と、現在の開発による転入を比べると、後者の転入者数は少なくなっているように思う。高野台、古江台、藤白台、万博公園周辺等の開発により、今後も転入超過が続くかもしれないが、将来的には開発地も少なくなるため、転入超過が長期的に継続するのか分からない。
- ・総合計画の人口推計結果は、総合戦略にも掲載するのか。
(事務局) 総合計画の中間見直しで行った人口推計は令和2年度の実績値補完であるため、今後の開発動向等について詳細に反映できていない。そのため、次期総合戦略における示し方についても検討する必要があると認識している。一方で、転入超過が今後も継続するという前提により算出した人口ビジョンについても、有り得ない未来ではないと考えているが、数字がひとり歩きすることも懸念されるため、人口推計・人口ビジョンの見せ方について改めて検討したい。

3. その他(1)～(3)

以上